

(156) 新潟県湯沢の土樽鉾山跡

この鉾山は参考文献(1)で既に紹介されている。が、現地の訪問実施年は30年以上前となる。最近、この文献を手引きに現地を訪問したので、探査記としてまとめることとした。現地の地質概略、そして鉾山ズリからの採集鉾物概略は文献に詳細に記述されているので、それに譲る。なを、この本は現在でも書店で購入することができよう。現地では各種硫化鉾物が容易に採集できよう。

現地への経路は次の通りである。関越道を北上してきて、長い長い関越トンネル(長さ約20km)を通り抜けた越後側の最初の湯沢ICで降りる。その後は、図1に示しているガーミンによる青色ログに従えば良い。現地付近までICから10分~15分。鉾山跡は駐車場から徒歩で15分~20分。山道は最初は傾斜は緩いが、後半は急登となる。登り上がった場所がプラトーとなり、ズリの上部となる。昼食には格好の場所となろう。

探査日 2018年4月、5月

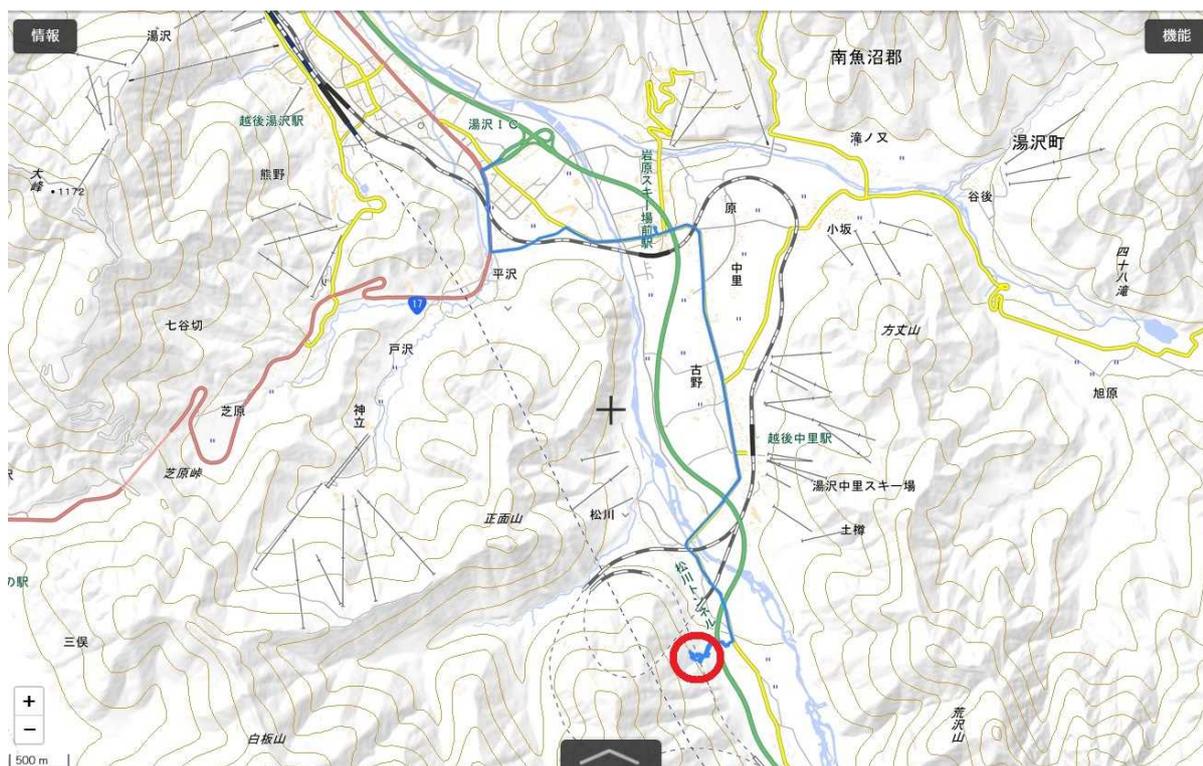


図1 青色曲線でガーミンの経路ログを示している。湯沢ICから青色曲線が描かれ、関越高速道沿いに南下して行く。信越線の松川トンネル(ループ型トンネルとして有名である)付近に記した赤丸が土樽鉾山跡。



図2 図1の部分拡大図。Pは車を駐車した場所。コンクリート敷設の広い「空き地」。冬期の除雪関係車両の駐車場と思われるが、車が数台ならば、高速道路下を通り抜けた道路脇に駐車もできよう。ここから徒歩で10分から20分で現地である。途中、赤丸で記したところにトンネル入口がある。写真3参照。入口から中を覗き、懐中電灯で照らすと、配電盤などを見ることができる。稼働中の施設である。多分トンネル保線用と思われる。坑口ではない。右側に見えるズリ斜面は急傾斜である。ズリ斜面に向かって左側に細々ながら急な山道がある。それを登り切ることで、ズリ斜面の上のプラトー部に達する。茶色ベタがズリ、黄緑丸が坑口跡？ プラトー部には鉱山跡らしく、機器類、石垣組、コンクリート基台などが残っている。

鉱山跡写真



写真1 駐車場Pから見上げた鉱山跡。中央の杉林の先端部の「裸地」がズリ跡。目前のコンクリート擁壁は高速道路の防音壁。現時点でも、Google Earthで、この裸地を視認できる。数十年前の鉱山跡のズリが現在でも裸地であるのは、ズリが急峻か、ズリに鉱物成分が多く、植生が育たないためと思われる。



写真2 ここから林道に入っていく。



写真3 図2の赤丸の位置。保線用トンネル入口。坑口跡ではない。鉦山跡へは向かって右側のあたりから登っていく。



写真4 鉦山跡のプラト一部からの下界の眺め。右側上方奥が谷川連峰。



写真5 図2中の黄緑丸の位置。プラト一部の間あたり、山側にあった潰れた坑口跡らしい箇所。



写真6 プラト一部にあったワイヤーウインチの残骸。

採集鉱物写真



写真7 採集した金属鉱物がやや豊富な標本。色々な鉱物が散らばっている。

参考文献

(1) 「鉱物観察ガイド」 松原聰編著、東海大学出版、2008年。